

地震発生後のながれと避難

地震発生

落ち着いて身の安全を図る!

- 火元の確認
- 窓やドアを開けて逃げ道を確保
- 家族の安否確認(状況に応じ、避難先にて行う)

自宅に倒壊の恐れがあるか?

いいえ

- 隣家の倒壊などで自宅に影響があるか?
- 自宅に留まった場合に身の危険性を感じるか?
- 近隣の火災により、自宅への延焼の危険があるか?

いいえ



自宅で生活

はい

地域で定めた避難先へ集合

地域のできる限り、安否の確認をしましょう。

一時避難場所・広域避難場所へ避難

火災の拡大や、有毒ガスの発生等で、一時避難場所も危険な場合は、広域避難場所より安全な場所へ避難する。

いいえ

- 自宅が倒壊
- 自宅が火災で焼失
- 自宅での生活が困難

はい

避難所で生活

避難場所と避難所の違い

避難場所とは、

建物倒壊等、その場にいることが、危険であると感じた場合に、命を守るためにとりあえず避難する場所です。

避難場所には、一時避難場所と広域避難場所があり、グラウンド等のオープンスペースを指します。

一時避難場所と広域避難場所の違いについては、P33 参照

避難所とは、

地震や火災で自宅が倒壊・焼失してしまい、生活する場所がなくなってしまった方が一定期間生活を送る施設のことです。

小中学校や市民センターの体育館等を指します。

※避難場所と避難所は、地震や風水害（土砂災害・洪水）の災害事象別に指定しています。詳細は本書 P15、P32～P55 をご覧ください。

ポイント

《在宅避難のすすめ》

- 地震により水道や下水道などのライフラインが使えなくなったとしても、自宅に倒壊の危険がなく住める場合は、自宅に留まり生活をする「在宅避難」をしましょう。大地震発生時における避難所は、多数の避難者が押し寄せ、混雑が発生する可能性があるほか、プライバシーの確保も困難となります。また、環境の変化により体調を崩すこともあり、快適な生活空間とはならないためです。
- 災害発生時にも平常時と同様に、住み慣れた自宅で、家族と生活できるよう、日頃から食料や飲料水、簡易トイレの備蓄などの防災対策をしておきましょう。

